

## 「Dr.アクチノ」を利用した自家製発酵菌体堆肥の作り方

堆肥は、稲わら、もみ殻、落葉などの植物性有機物に家畜糞尿など(窒素源)を混合・堆積・発酵させたものです。発酵・腐熟には微生物が大きく関与します。

良質な堆肥には細菌・放線菌・糸状菌などの有用な微生物が多く含有されており、原料有機物に有用な微生物を積極的に混合することにより、より効率的に良質な堆肥を製造することができます。

発酵を順調に進めるためには、温度、水分、酸素、C/N比(含有する炭素と窒素の割合)などが適正な条件であることが大切です。

〈使用例〉 ※その他の原料の場合はご相談ください

もみ殻…C：37.5%、N：0.5%、C/N比：75

米ぬか…N：2.3%

Dr.アクチノ…N：2.9%

水：全材料の重量の50%

材料	重量	C	N	C/N比	水
もみ殻	100kg (約1,000L)	37.5kg	0.5kg	75	
米ぬか	10kg		0.23kg		
Dr.アクチノ	45kg (3袋)		1.3kg		
	155kg	37.5	2.03	18.5	77.5kg

①全部の材料を良く混ぜたあと、小山状にして水をかけ堆積（屋外に堆積するときは雨よけ、保温のためにブルーシートなどで覆う）

②数日後、表面から数cmの幅で白っぽいカビの層が見られたら、内部と外部の発酵状態を均一にするために切返しを行う

③水分が少なくて乾燥するようであれば発酵熱が上がらず堆肥化が遅くなるので、切返しの際に適度の水を加えて発酵熱が上がるようにする

④約1ヶ月毎に切返しを行い（3回以上）、全体の色が茶～黒っぽくなり、温度が下がり、アンモニア臭もほとんど無くなっていれば完成

堆肥づくりは微生物の活動を活発にすることがポイント